



第2530地区 福島西ロータリークラブ会報

会長 高梨哲男
幹事 高橋智弘

奉仕プロジェクト委員会委員長 渡辺敬藏

会報写真担当 梅津一匡

令和5年3月13日(月) 第25回 通算第1653回例会

・例会日/月曜日12:30 ・例会場/ウェディング エルティ ☎(024)535-6188

事務所/福島市万世町2-5 福島銀行本店9F ☎(024)536-1010・FAX(024)536-1011 Eメール/f-rotary@guitar.ocn.ne.jp

第25回例会 点鐘12:30

- ◇開会点鐘 高梨哲男会長
- ◇ロータリーソング「我らの生業」
ソングリーダー 宮崎秀剛会員
- ◇お客様並びにビジター紹介
米山記念奨学生 レティトゥ ハーさん
- ◇2月・3月分米山記念奨学金給付
米山記念奨学生 レティトゥ ハーさん



- ◇カウンセラー感謝状 伝達 大平 謹一郎会員
- ◇ロータリー財団 伝達



- ポールハリスフェロー+2 高梨哲男会長
- ポールハリスフェロー+1 新開文雄会員
- ポールハリスフェロー 高橋智弘会員
黒澤信之会員



◇会長あいさつ 高梨哲男会長
のんびりと自堕落に生きていても、この日に言及する訳にはいかないのですが、私達の立場や日常における3月11日は様々な思いの中で、東日本大震災から12年の歳月が過ぎました。私達はあの津波や原発事故に遭遇し、リアルな災害状況と、福島第一原発事故での悲惨な現実と直面しています。まずは私達も含むこの関連犠牲者に対する哀悼の意を表わし、今後延々と続く復興への道のりを追求することが指命や役割として認識し、今少しづつ進行している数々のこの事業が痛ましい記憶を封印したい思いと教訓を風化させないという未来への責任として葛藤もあるかもしれません。時が過ぎても心の折り合いのつく日が来ることを願うものであります。再三再

四叫ばれるイノベーションコストが私達の中で、ぼやけて困惑することの多い国の責任だけを追求するあまり、自治体の最低限必要な検討、議論すべき案件が置き去りにされ、意思疎通が十分でない、簡単なインフラ整備にばかり目がいき、私達の内にある苦痛や未来思考が公の場で広く議論され、汚染水放出や帰還困難者の問題は決して先送りできないし、近々の状況である我自治体の忌々しき問題として明確に認識することが、次世代への責任であり、持続可能な多様性を持った目の前の危機に対処するの必要に迫られているのでは。

R.C.の思考回路も旧態依然として、奉仕が色褪せてきているように見えるのですが、皆様はどうですか。

- 例会変更のお知らせ
・当クラブ、次週20日(月)の例会は祝日週の為休会となっております。
- その他のお知らせ
・3月ロータリーレートは1ドル136円となっておりますのでお知らせいたします。

委員会報告

- ◇プログラム・出席・スマイリングBOX小委員会 渡辺敬藏会員
- 黒澤信之会員=ハーさん、卒業おめでとうございます。健康に気を付けて、日本とベトナムの架け橋になる様な御活躍をされる様お祈りいたします。
- 宮崎秀剛会員=ハーさん、卒業おめでとうございます。
———米山記念奨学生卒業スピーチによせて———
- 高梨哲男会長 ○朝倉久仁会員 ○大平謹一郎会員
- 久米允彦会員 ○齋藤武二会員 ○佐藤慶行会員
- 佐藤宗弘会員 ○高橋智弘幹事 ○西形健吉会員
- 野尻榮一会員 ○渡辺敬藏会員

本日のスマイリングBOX集計13件 26,000円
ご協力頂きました皆さん、ありがとうございました。

- ◇本日のプログラム
- 米山記念奨学生 卒業スピーチ レティトゥ ハーさん



皆様、おはようございます。いつもお世話になっております。今日の例会で、発表させていただきます。今日で例会に参加するのも、この場に立って発表するのも最後なので、話したいことがたくさんですが、言葉で表されない感情で、どこから始めればいいのか分かりません。

2年前に、米山ロータリーの奨学生になる時には2年間として長い時間だと思っておりました。しかし、今日はもう最後に私が皆様と一緒に例会に出るということで、信じられません。

私が米山ロータリー奨学金、特に福島西ロータリーのクラブから支援をいただくことは、私にとって非常に大切なことであると思います。奨学金は、大学の学費や生活費などを支援するために提供される経済的支援の一形態であり、私にとって教育を受ける機会を提供していただいています。奨学金を提供している米山ロータリー奨学金と福島西ロータリークラブは、教育の価値を理解しており、その価値を共有している皆様から支援を受けています。そのため、奨学金を受けることが社会からの信頼とサポートを受けていることを意味することは分かりました。

奨学金を受けることで、私は自分の夢や目標に向かって進むための資金を得ることができました。これにより、私は学業に集中することができ、将来に向けての自信と希望を持つことができました。このような支援が私の人生に与えた影響を認識することです。2年間でコロナの影響で私の収入が結構減って行きました。そして、就職活動に取り組み時には、就活に注力しなかったため、アルバイトも減りました。毎月、ロータリー米山奨学金をいただき、私にとって非常に助けになっておりました。特に、ロータリーが卓話の活動を行っていただき、自分のコミュニケーション能力を高めることができます。ですから、就活の面接を受けた時に上手く話せました。皆様の応援のおかげで、それに自分の努力した結果として、5社から内定をいただきました。最後まで、悩んでいましたがニッセイ情報テクノロジーという会社で働くことを決意しました。これから、皆様に感謝の気持ちを忘れずに、将来に向けてさらに頑張っていきたいです。

また、就職活動を通じて、自分を見直し、自分をより理解することができました。自分の長所、短所、目標、夢など、一見分かりやすいようで、結構時間がかかるものです。

「人生は出会いで決まる」という言葉が好きです。私はいつも幸せだと感じ、人生の旅路で出会う人々を大切にしています。友達、先生たち、特にここに座っているロータリー米山記念奨学会の皆様が、私に多くのことを教えてくれ、日々より成長した私を構築することに寄与してくれています。人生において、誰も一人では成し遂げられないことがあります。そのような時に、私は周りの人々から支援を受けることができます。支援してくれる方々には、家族や友人、先生や上司、または様々な団体や機関が含まれます。その中に支援してくれるカウンセラーさん(大平先生)と福島西ロータリークラブの皆様は、私に色々なことを教えます。そのため、私が成長し、目標を達成するための力となっています。提供するサポートは、物理的なものだけでなく、精神的な支援や励まし、またはアドバイスや知識など、様々な形をとることがあります。皆様が私を支援してくれることで、私は自信を持ち、前進するための力を得ることができます。また、皆様の支援は私の人生にとって大きな影響を与え、私は自分自身の目標に向かって進むことができます。支援してくれる皆様には感謝を忘れずに、その恩恵を受けたことを誇りに思い、将来に向けて自分自身を成長させるために努力しようと思います。

ロータリー米山奨学会の皆様と交流することと米山ロータリーの活動(卓話、奨学生のための研修会など)で、色々なことを身に付けました。特に、日本の文化を学ぶことができました。米山ロータリーの奨学生になって、学生時代にはたくさんの思い出を作ることができ、これから社会人になっても一生忘れないものです。米山ロータリーで勉強したことがベースとして、会社に入って仕事ができ、周りの人に信頼され、成長できるように頑張ると考えています。特に、将来、日本と母国との架け橋になりたいです。会社の発展に貢献するだけでなく、人の役に立つ人間になりたいものです。それを目的として次のことを頑張ります。

1つ目は、語学力を磨くことです。

母国と日本の架け橋になるためには、日本語と自分の母国語の両方を熟知していることが必要だと思います。日本語を習得することで、日本とのコミュニケーションがスムーズになります。また、自分の母国語もしっかりと習得し、両方の言語を使ってコミュニケーションをすることで、母国と日本の人々を繋ぐことができます。

2つ目は、文化の理解を深めることです。

日本と自分の母国では、文化が異なる点があると思います。母国と日本の人々を繋ぐためには、お互いの文化だけでなく異なる文化も理解し、尊重することが必要です。母国や日本の文化について学び、交流を深めることで、より良いコミュニケーションを築くことができます。

3つ目は、社会貢献を行うことです。

母国と日本の架け橋になるためには、社会貢献を行うことが大切だと思います。自分ができることから始め、母国や日本の社会に貢献することで、お互いにより良い社会を築くことがで

きます。また、社会貢献を通じて、母国や日本の人々との交流を深めることができます。

4つ目は、ネットワークを広げることです。

母国と日本の架け橋になるためには、広いネットワークを持つことが重要だと思います。様々な人々と交流し、コミュニティを形成することで、母国と日本の人々を繋ぐことができます。また、ネットワークを広げることで、自分自身も成長し、新しいアイデアや知識を得ることができます。

これらのポイントを意識して、母国と日本の架け橋になるための取り組みを進めていくことを大切にします。

私のコースが2月6日に卒業論文の発表会を行いました。みなさんのおかげで、無事に終了しました。そして3月24日に卒業式が行われます。卒業式後に引っ越しする予定です。

皆様と出合いができて、とても嬉しいです。

皆様が常に健康であることをお祈り申し上げます。

私の発表はここで終わらせていただきたいです。

ご清聴どうもありがとうございます。



◇閉会点鐘 高梨哲男会長
※会報カメラ担当 梅津一匡会員

県北第一分区 女性生理貧困寄付事業

3月7日(火)福島県男女共生センターにて、県北第一分区女性生理貧困寄付事業を実施しました。

当クラブから高橋智弘幹事が出席しました。

